



Dを飲むとまず血の循環が良くなる。マグニートのサンドバスも同じで、循環が良くなるとかゆくなったり、赤い湿疹が出たりするのは、好転反応。そして血の循環がよくなると、胃腸の働きが良くなって、下痢になる人がいる。SODにはごま油が入っているからよけいに便通が良くなるんです。逆に、便秘になる人もいます。これは、胃腸の消化吸収が良くなって、これまで吸収されずにスルーしていたものが吸収されてしまうから便が少なくなつて便秘になる」

——なるほど、人によって正反対の反応が出るんですね。その場合、どうすればいいのでしょうか。

「いずれも1週間くらいで落ち着くからそのままでもいいけれど、下痢が続いて仕事に差し障るようなら、落ち着くまでSODの量を少し減らすといいです。逆に便秘になった人は、SODの量を少し増やすといい」

——かゆみ、下痢、便秘など以外の好転反応は？

「胃が痛くなる人がいますね。これ

はSODの中に抹茶が入っているからなんです。だから空腹で飲むと胃が痛くなる人がいます。そういう人はSODを食後に飲むといい。それでもダメな人は、SODのマイルドタイプというのが出てくるからそれを飲むといい。マイルドタイプは、抹茶の代わりに杜仲抹茶という胃に負担のないお茶を使用しているから」

——あと、リウマチの方がSODを飲み始めて急に痛くなつてやめたというのをよく耳にしますが

「ああ、これも多い。これまで血が巡っていなくて痛みの神経が麻痺していた患部が、SODを飲んで血が巡り始めて麻痺がなくなり痛くなるんです。神経が生き返ってくるんだ。神経が麻痺して関節が曲がらなかつたりしているわけだが、神経が生き返れば関節も曲がるようになる。その過程で痛くなるんです。これはね、SODを飲んで急に痛みが出たからびっくりして怖くなつてやめてしまう人が多いんです。それは逆。痛みが出たら生き返つた証拠。そういう人

は痛み止めを飲んで、今までの2倍、3倍のSODを飲みなさい。そしてこの痛みの峠を早く駆け抜けること。そうすれば動かなくなった手足が2、3か月で絶対に動くようになりますから。膠原病も同様です」

——やはり痛みが出ると怖くなりますよね。それに辛いし。そこをやめないで逆にSODの量を増やすすんですね。

「どんどん飲んだほうがいいです。効果が出ていくということだから。早く痛みがなくなります。痛み止めは短期間なら大丈夫だから、がまんしないで飲みなさい。それは市販のものでもいいですよ」

——あと、アレルギーと好転反応の違いも難しいですよ

「確かに、SODは大豆を使用してあるから大豆アレルギーの人はかゆみのアレルギーが出てしまうことがあります。この場合の見分け方は、かゆみが出ても1か月くらいSODを飲むんです。そして1か月してかゆみが治まってきたらそれは好転反応です。それでも治まらない、どんどん悪くなつていっ

たらそれはアレルギーですからSODは飲まないほうがいい。1か月もしたらすぐにわかります」

——そのみきわめをしているときのSODの量はどれくらいがいいですか？

「アレルギーなら1包でも出ますから、量はそんなに多くなくてもいいでしょう。1日に2包か3包でもいいです」

——あと、心臓疾患でワーファリン（注1参照）を処方されている方からSODと併用してもいいのかという質問がきていますが

「これは心臓の悪い人が血管に血液が詰まるといけないからそれを溶かす薬です。SODを飲むとワーファリンの効果は薄くなります。しかし、SODは血管の詰まりを取るから、薬の効果は減つても、結果、体にはいいです。プラスマイナスゼロだから併用しても大丈夫です」

——最後の質問は、SODを飲み始めてから微熱が出て、風邪の症状のように熱っぽく、だるいのですが、大丈夫でしょうか

「これもやはり血の循環が良くなつ



たから起こる現象です。今の人は血の巡りが悪いから、たいがい低体温なんだ。最近では平熱で35度くらいの人が多い。健康な人の体温は普通36度から36.5度が理想なんです。そういう低体温の人がSODを飲むと、血の循環が良くなりま

す。血の循環が良くなると体温、代謝能力が上がります。しかし日頃、低体温の人は上がった体温に慣れていないから、一時的に熱っぽく感じるんです。この場合は、

どんどん増やして飲んでください。平熱が上がると免疫力も上がりやすから」

——だるくなるというのは？

「ひとつの例として、肝硬変というのは肝臓が固くなって肝臓に血が流れないんです。この場合のひとつの症状として不眠症になります。

そういう人がSODを飲むと血の循環がよくなって、ものすごく眠くなつてだるくなつてしんどくて立っていられなくなるんです。そういう人はSODをどんどん飲んで、寝たいだけ眠ることです。3、4週間もしたら生まれ変わっていま

すから。栄養ドリンクを飲んで寝ないで無理するのはいけないんです。微熱とだるさは、好転反応ですから、そういうときはSODを増やして体を休めることです」

なるほど、体が出している信号

を止めてはいけませんね。

注1：ワーファリン

ワーファリンはビタミンKの働きを邪魔することで、血液が固まりにくくする薬です。現在の医療では人工弁か心房細動と言う病気に使います。

いずれの場合でも、心臓の中で血液が固まって、その塊が剥がれて脳梗塞を起こしてしまうことを防ぐために服用します。人によって効き具合が違いますし、食事や併用薬の影響を大きく受ける薬です。効が悪

いままだと脳梗塞を起こす確率が高くなります。逆に効が良すぎると出血性の合併症を起こす確率が高くなります。

◆丹羽先生診察ご希望の方は

御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所

☎0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎03(5787)3498

まで お電話ください。

SOD愛飲者インタビュー

虚弱体質に輸血からC型肝炎の追い打ち...

SODで60歳から青春

愛知県 坂下孝子さん(63歳)

「生まれてこのかた、信号を走って渡ったことは一度もなかったんです。駅の階段も、友人はみんな楽しそうにおしゃべりしながら上り下りしているのに、私はそんなことできなかった。上り下りに一杯で、話すことなんかできなかつたんです。それくらい虚弱体質でした」

とおっしゃるのは、愛知県にお住まいの坂下孝子さん。体育の授業も休みがち、少し歩いただけで疲れてしまう虚弱体質。どうして自分は人と違うのだろうと、小さい頃は思ったそうです。そんな体質と60年近くも付き合ってきたせいか、健康体がどんなものかすら知らない孝子さん。当然、これまでの人生のなかで様々な疾患が彼女を襲ってきました。

「生まれましてこのかた、信号を走って渡ったことは一度もなかったんです。駅の階段も、友人はみんな楽しそうにおしゃべりしながら上り下りしているのに、私はそんなことできなかった。上り下りに一杯で、話すことなんかできなかつたんです。それくらい虚弱体質でした」

とのおっしゃるのは、愛知県にお住まいの坂下孝子さん。体育の授業も休みがち、少し歩いただけで疲れてしまう虚弱体質。どうして自分は人と違うのだろうと、小さい頃は思ったそうです。そんな体質と60年近くも付き合ってきたせいか、健康体がどんなものかすら知らない孝子さん。当然、これまでの人生のなかで様々な疾患が彼女を襲ってきました。

「術後も毎日のように200ccの輸血をしてもらい、それはもう、これまで経験したことがないくらい

にラクになったんです。健康な人がどんなものかというのを初めて知りました」

当時、薄い血液を補ってくれた輸血は、彼女の救世主だったに違いありません。嬉々とした大学生活が始まり、その前途は希望にあふれていました。ところが、1年後、輸血をしてもらっているのに急に体が重く、だるくて立っていられなくなりました。おまけに全身に黄疸も見られたのです。

### 「C型肝炎」(※注1参照)

これが病院で告げられた病名でした。

以後、孝子さんは虚弱なうえにC型肝炎という難病とも闘っていくことになったのです。

## SODで普通の生活が丹羽療法で肝炎も克服

昭和40年代に手術と大量の輸血。そのことがどのような事態をもたらしたのか、事の重大さは平成に入ってから初めて明かされました。「薬害肝炎」の事実が公表されたのです。そこには、1992

(平成4年)以前に輸血をした人、1988(昭和63年)以前に血液製剤(手術などで止血のために使用するもの)を投与された人にC型肝炎感染の可能性あり。さらに現在40歳以上の人で予防接種などの折に注射針の使い回しによる感染、発症の可能性ありと公表されたのです。

孝子さんが大学生だった昭和40年代には、そんなことは知る由もなく、最先端西洋医療は絶対だと信じていました。当時の日本は、高度経済成長の時代。誰もが馬車馬のごとく働き、がんばっていたのです。

体に鉛が入ったような状態が日常だった孝子さん。結婚し、出産してもそれは変わりませんでした。当時の肝炎の治療も大きな効果は見られず、それでもがんばるしかなかったのです。

「C型肝炎の薬害が話題になったとき、まさか、と思いながら新聞に公表された病院名をたどっていったら、やはり、ありました。当時私が通っていた病院、手術をした

病院の名前が。輸入の危険な血液製剤を使っていた、肝炎感染血液を輸血していたと」

8年前。そのことを踏まえたと、新たに診察をしてもらうと、孝子さんのC型肝炎は抗体が最大で、C型のなかでも最も治りにくいものだということが判明したのです。以来、3か月に一度の検査と半年に一度のエコー検査を続けるなか、血小板の数値が落ちていたので、数年前にとうとうインターフェロン治療(※注2参照)を勧められたのです。

このインターフェロン治療の副作用に関して、以前、丹羽先生にインタビューした記事をここに紹介します。

「インターフェロンというのは抗がん剤の一種だから、当然副作用があります。うつ病、糖尿病、リウマチなどが多くみられる。確かに、初期で慢性期間が短ければ効く場合があるから盛んに使い始めたんです。最近はそのりにリバベリンを併用すると今まで効かなかった10人中2、3人には効くんです。た

だし、リバベリンの副作用は溶血性貧血。これは血が溶けてしまう病気で、赤血球が破壊されておこるんです。鼻、歯肉からの出血に始まり、息切れ、動悸、黄疸になって死に至る。よく効く薬が出たと思っても、やっぱり化学薬品には副作用があるんです。糖尿病やうつ病では直接死に至らないけれど、溶血性貧血は直接死ぬからいかに効いた薬ほど危ない。僕の患者さんにもうちの治療をしていたのにインターフェロン治療に行ってしまった人がいますよ。医者によっては期待を持たせることを言うんでしょうね。治った人がいることなど。それは確かにいるでしょう。しかし、その裏で何十倍もの人が副作用で苦しんでいるということは絶対に言わない」

このようにインターフェロン治療には大きなリスクもついてきます。孝子さんは、虚弱体質だったからこそ、リスクのある治療には敏感だったのかもしれない。

「インターフェロン治療にはある程度の体力がいると言われて、そこ

に自信がなかったんです。それに、やはり副作用などのことも心配でした。虚弱体質ですから、きっと副作用も人よりは如実に表れるような気がしたんです。ですからほかに方法がないかいろいろ調べました。サプリメントも山のように試しましたが、健康食品のことはそりゃ詳しくなりましたよ(笑)」

そんななか、息子さんの奥様、つまりお嫁さんが人づてにSODのことを聞きつけ、勧めてくれたのです。

「4、5年前だったと思います。取り寄せた資料にいろんな方の体験談が載っていて、それを読んで、これは他のサプリとは違うと思うたんです。サプリではなく、病気を治してくれる薬以上のものだ。さっそく試してみても、違いは歴然でした。それまでですごくたくさんサプリを飲んでいたのですがどれも効果らしいものはなかったんです。でも、SODは他のサプリとは違いました。最初、好転反応で微熱やだるさがありしんどかったんですが、まず高かった血圧が

下がりに、次にコレステロール値も下がった。何をやっても低くならなかったのに、SODを始めて3か月くらいで効果が表れ始めたんです。これは凄い、本物だ」と



1日4包のSODを続けるうちに、少しずつ体のだるさも減り、床に臥せる時間が減ってきていたのですが、やはりちよつと無理をするのとたんに元の木阿弥。そんななか、血小板の数値が急に減り、いよいよインターフェロン治療をしなければいけない状況になったのです。かかりつけの医師も、孝子さんの虚弱体質のことを考え、

どうするべきか迷っていらしたといます。

「そしたら、SODの会報のなかに丹羽先生の診療が受けられることが書いてあるのを見まして、一度ちゃんと診察していただこうと思っただんです」

その時は全国に診療所があることまで知らなくて、土佐清水まで行こうと思われたとか。そして電話をしたら、孝子さんの住んでいる地域に近い名古屋にも診療所があることを知ったのです。そこでようやく、去年の7月、丹羽先生の診察を受けました。

「そのときに先生は、力強く、大丈夫！ インターフェロンはやらないうでいい」とおっしゃってください。私にはそのときの丹羽先生が神様のように見えました。ええ、診察は3か月おきに受けています。SODを4包と先生が処方してくださるBG103というお薬(アガリクスを基本にした丹羽療法独自の生薬)を毎日3包飲んでいきます。私も抗がん剤などの怖さはずいぶん勉強して、インターフェロ

ン治療等はやりたくないと思っていましたから、先生の生薬で。C型肝炎がみるみる良くなっているのを知るにつけ、丹羽先生に出会えてよかったです(笑)」

かかりつけの医師からも笑顔で「もう大丈夫、と言われるようになります。今ではすっかり元気になりました(孝子さん)。」

「すごいんですよ、今は普通の人と変わらない生活ができるんですから。それまでは家事は最小限で、横になることのほうが多かったんです。それが最近ほとんど横になることがなくなりました。信号だつて小走りで駆け抜けられるんです。もう、それが嬉しくて嬉しくて、60歳になって初めての青春がやってきたみたいですよ(笑)。友人もびっくりしています。丹羽先生に出会えて私は本当に幸せ者です」

60歳になって青春を取り戻したとおっしゃる孝子さん。そのはつらつとしたお声にも力がみなぎっていました。これからはご家族やご友人との旅行など、思い切り青春を楽しんでください。ありがと



うございました。

注1 C型肝炎

C型肝炎はHCV（C型肝炎ウイルス）の感染によって起こる肝臓の病気です。肝炎になると、肝臓の細胞が壊れて、肝臓の働きが悪くなります。しかし、肝臓は予備能力が高く、慢性肝炎や肝硬変になっても自覚症状が出ないことが多いことから、「沈黙の臓器」と呼ばれています。HCVに感染すると、約70%の人がC型肝炎ウイルス持続感染者（HCVキャリア）となり、放置すると本人が気づかないうちに、慢性肝炎、肝硬変、肝がんへと進展する場合があります。注意が必要です。

HCV（C型肝炎ウイルス）は、主として感染している人の血液が他の人の血液の中に入ることによって感染します。具体的には、以下のような場合に感染が起こることがあります。

- HCVが含まれている血液の輸血等を行った場合
- 注射針・注射器をHCVに感染している人と共用した場合

● HCV陽性の血液を傷のある手で触ったり、針刺し事故を起こしたりした場合。

● HCVに感染している人が使用した器具を、適切な消毒などを行わずにそのまま用いて、入れ墨やピアスの穴あけなどをした場合

●平成6年（1994年）以前にフィブリノゲン製剤の投与を受けた方（フィブリノ糊としての使用を含む）、又は昭和63年（1988年）以前に血液凝固第Ⅲ、第Ⅴ因子製剤の投与を受けた方（これらの製剤の原料（血液）のウイルス検査、HCVの除去、不活化が十分にされていないものもあり、HCVに感染している可能性が一般の方より高い）

注2 インターフェロン

インターフェロンは人間等がウイルス感染を受けた時などに体の中で作るタンパク質の一種。インターフェロンの種類は、現在までにα型、β型、γ型の3種類が分かっています。それぞれの性質は少しずつ異なりますが、主な作用として抗ウイルス作用、免疫増強作用、抗腫瘍作用など

があります。インターフェロンによる慢性ウイルス性肝炎の治療は、この抗ウイルス作用により肝炎ウイルスを攻撃し、ウイルス性肝炎の治療をしようというものです。1986年にB型慢性活動性肝炎に対して保険適用となり、1992年からはC型慢性活動性肝炎に対してもインターフェロンによる治療が保険適応となりました。慢性活動性肝炎を放置すると、将来肝硬変・肝ガンへ進行する可能性が高いため、その進行を抑えるために「強力ネオミノファーゲンシー等によって肝臓の中の炎症を抑え、病気の進行を抑える」という治療と、「インターフェロンのように病気の原因であるウイルスそのものをやっつけてしまう」という治療

が主なものとして考えられています。副作用は、急性の場合は高熱、頭痛、筋肉の痛み、食欲不振など、インフルエンザによく似た症状や、下痢や発疹があります。慢性の場合は、気分が滅入って、抑うつ的なことがあります。また、肺が線維化して呼吸が苦しくなる間質性肺炎、不整脈が起こる、甲状腺の障害が起こりホルモンのバランスが崩れる、髪の毛が抜けるといった症状が現れてくることもあります。このように、インターフェロンの副作用はさまざま危険な場合もありますから、C型肝炎でインターフェロンによる治療を受けている場合は、定期的に、医師の診療を受け副作用のチェックをしたほうがいいでしょう。

## SOD様作用食品 体験者の声を お聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区  
駒沢 5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛  
TEL 03-5787-3498

までご一報ください。

# SOD様作用食品とは● 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため体内でも胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽勲負（耕三）医学

博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治療力の偉大さを教えてくれました。病氣は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

## 丹羽療法を知る一冊

### ◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」廣済堂

「天然SOD製剤ががん治療に革命を起こす」廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた 医者的心」草思社

「安心の医療・本当の健康」みき書房

「クスリで病氣は治らない」みき書房

「医は仁術なり」至知出版

「丹羽療法全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」リヨン社

「SOD様作用食品の効果」小冊子

